

1. 共通テーマにおける取り組み

①事例を用いた取り組みとして1月の協議会では東区指定相談事業所連絡会との意見交換会を実施。H31年の協議会で取り挙げた事例についてテーマを「この子が東区で安心して過ごすために」として交際時・妊娠前後、出産前後、以降の子育てで「今思うアイデア」や「あったら良い支援や資源」について共有。

○参加者からの意見

- ・ 児童委員など親族以外のインフォーマルな支援がどれだけ得られるか。
- ・ 家族3人で入居でき、育児支援もしてもらえるGH。
- ・ 保育所付きの作業所で、同じ立場の方達で子育てについて学べたら。
- ・ 子育てビデオ（子育ての苦労面も盛り込んだ、子育ての現実イメージが理解できるもの）
- ・ **保育所送迎や食事支援、寝かしつけなどのフォローを障害の有無に関わらず受けられるなど子供が安心して成長できるシステムづくりが必要。**
- ・ 障害のある父母の権利と子の命を天秤にかけるべきではない。
- ・ 障害のある子への性教育に向き合えていない親世代が多いと感じる。
- ・ 両親が育てられてきた環境が子育てに影響することが多い。
- ・ 障害のある方のカップルなど同じ環境の方々が集える場。・妊婦の頃から区役所の子育てルームを活用。
- ・ 周産期メンタルヘルスとして気軽に相談ができる場。
- ・ 子育てについて学べる場。知的に障害のある方向けの両親学級で知的に障害のある方にもマンツーマン対応や視覚化など判りやすく説明を受けられる環境。・子育てを一緒にしてくれる支援者や支援の場。
- ・ 訪問支援など家の中での子育て支援の拡充（一方で子にとって望ましいかは検討が必要）。
- ・ 乳児院へ保健師が親と同行し指導してくれたら。

②児童精神科の取り組みと事例共有

事例提供者：阪南病院 阪口久喜子氏（東区協議会委員）

○阪南病院児童精神科の紹介

児童病棟への入院状況、院内学級、スタッフ構成、実施プログラム、カンファレンス実施状況、保護室、子どもの権利を考慮して親の理解を促す目的から、他院に比べて任意入院にしている割合も高い

○事例共有「事例から学ぶ地域支援」

- ・ 支援者が互いを知って連携する機会にして欲しいとの思いで、多機関が関わった事例を共有して頂いた。
- ・ 家庭環境から自宅での生活が困難で、入院と施設入所を繰り返したが、医療・行政・福祉・学校がカンファレンスを繰り返して情報共有をしながら本人と向き合ってきた経過や、振り返って大切だった考えられる支援の視点について共有して頂いた。

<参加者との質疑応答より>

- ・ 阪南病院が深くケースに関わっている事が知れた。・児者の繋ぎが切れ目にならない支援を聞いた。
- ・ 繋ぐことの大切さと繋いだ後の支援、互いの協力の重要性を感じた。・支援を受けることを選んでも良いと思ってもらえるような関わりを心掛けている。・本人が伝えたい先に伝えられる関係性が知れた。
- ・ 大人病棟と異なり、児童病棟では育て直しを意識している。・また親も傷ついている場合も多くある。・必要ある支援を受けることで上手く生活できることを知ってもらえると良い。

③ダブルケア支援会議へ事例の積み上げ（開催月：6月9月12月3月）

- ・ 主催は東基幹型包括C。東区独自の取り組みで参加は家児相、保健センター、障害基幹、基幹型包括C。
- ・ ダブルケアに類似する事例として3月に取り挙げた事例と出た意見などを報告予定。

2. 東区独自の取り組み

【高齢者関係機関との交流会】

R3年度の参加者は48名（昨年度より8名増。）。

- ・交流会の歴史
- ・当事者の相互理解
- ・過去の交流会での意見紹介
- ・介護保険利用ガイドの説明

【介護保険利用ガイドの作成】

- ・作成機関：東区障害者自立支援協議会・東区ケアマネジャー支援部会
- ・協力機関：大阪介護支援専門員協会 東区支部
- ・作成数：1,000部（利用者向け/A3ルビ入り…500部・支援者向け/A4…300部）
- ・65歳を迎えるにあたり、介護保険の申請を考えている障害者の方が、スムーズに制度移行できるように当事者の方だけでなく、まわりでサポートしている方々も活用してもらうため作成。

【出前講座】

- ・すずらん会より、就Bアダプトへ防災食の研修をする中で講座をして欲しいと社協へ相談あり。
アダプトが障害者の事業所であることから、協議会の出前講座で対応する流れとなった。
- ・社協：自治推進課の資料に基づいて防災の説明。
- ・障基幹C：非常用持出し袋について、防災ブックと協議会の非常持ち出し袋を用いて説明。